

皆満寺通信

第29号



黒書院方面より御影堂を臨む

法語

国土の名字仏事をなす。
いづくんぞ思議すべきや
「浄土論註」曇鸞

最近あるCMを見て葬儀とは一体何なのだろうかと考え込んでしまいました。日本人が無宗教と言われるようになって久しいですが、葬儀が「お別れの会」だけになってしまっは何か足りないように感じます。皆さんは如何でしょうか。

お別れの会ではなく、葬儀として大切にされてきたものとは一体何でしょうか。告別式や、お別れの会だけをするのであれば僧侶も牧師さんも宮司さんも必要ないでしょう。最近告別式という名に取って代わられつつありますが、何故「葬儀」なのでしょう。それは葬儀の場が単なる「別れの場」ではなく、同時に「出会う場」であっ

たからではないでしょうか。

私たちには「安養の浄土で再会しよう。待っていてください」と言って「なんまんだぶ」と共に亡き方を送ってきた歴史があります。あの世でも、冥土でも、天国でもなく、浄土です。

浄土真宗というのはその名のとおり、浄土を真宗（生きる拠り所）とする仏道です。浄土は「存在の故郷（安田理深）、未だ観ぬ魂の郷里（金子大栄）」と言い表されてまいりました。私たちはその世界を未だ観ることは出来ません。しかし、名となった呼び声、名号を聞くところに於いて忘却の彼方から呼び覚まされるのだと教えられてきました。だから念仏しなさい。声に出しなさいと。

「なんまんだぶ」という仏さまの国から呼び声に、懐かしき存在の故郷は死に行く先にあるのではなく、どこまでも、いま、このわが身に「名／声」としてはたらき、「ここ」で生きる意欲を与えられるものが葬儀なのではないだろうか。

果たして僕はどうかだろうか。きちんと仏事の場としての葬儀をお勤めできていますでしょうか。皆さまは如何ですか。お葬儀が仏事の場になっていますか？

報恩講円成のご報告

昨年11月の報恩講は延べ220名のご門徒と共にお勤めすることが出来ました。ここに円成（まどかになる・・・欠けることなく完成する、無事に勤めることが出来た、物事の成就という意味で用いることばです）のご報告と勤修への御尽力下さいました皆さま、ご参詣くださいました皆さまに御礼を申し上げます。ありがとうございました。

また、今年度の報恩講実行委員会もさる2月12日に開催され、元年度の決算、2年度の予算が承認されました事を重ねてご報告いたします。

これで本年も報恩講へ向けてのスタートを切ることが出来ました。本年も次世代へ報恩講を手渡していくことを願って例年通り11月13日14日でお勤めさせていただきます。今年も是非お参り下さい。



立華の様子：報恩講はこうしてご門徒の皆さまと準備をしてお迎えしてはじめて勤めることが出来ます。皆さまのご協力をお待ちしています。

墓じまいと「恩おくり」

先日ご本山での研修会に参加してきました。その時にご講師の酒井先生がお話し下さったことで印象的だったことをちょっと紹介させていただきます。

墓じまいということ・・・「終活」として後に残ったものに迷惑をかけないようにお内仏（お仏壇）やお墓を処分していく。私たちは死んだらおしまいという「いのち」を生きているのでしょうか。終活という形で終わっていくいのちではなくて、何かそこから始まっていく、繋がっていく、そういう世界（死後の世界ということではなく）もあるのだということをお内仏やお墓

という形で感得していったということをお忘れにはならないと思います。

恩送りということ・・・「報」とは知らせるということ。恩を知らせる、報恩とは知恩、どこまでいっても恩を知り続けていく歩みがあるのだということ。

真宗の仏事は全てが報恩の仏事であるといえます。終活ということばの中で失われつつあるのは「大切な繋がりが絶たれようとしている」ということだなぁと。報恩という最も大切なことが伝わらなくなるとしたらこれは本当に大変なことだぞと。

酒井先生は、「親鸞聖人はこの世に誕生し、様々な苦悩を抱くことによって世界が開かれた人であると。そしてそこで教えに出遇っていかれたのだと。その教えに出遇った世界をいろんな言葉で私たちに届けてくださった。そこを訪ねていくのだと。報恩講というのはその恩を知り、知らされて開いてくる世界に遇うということなのだ」と教えてくださいました。

報恩講は「今何を大切に生きていますか？」というとても大切な問いをいただいていたのだと改めて知らされました。なるほど、だから年回法要もお盆もお彼岸もどんな仏事も全てが報恩の仏事でなのであります。

皆満寺宗祖親鸞聖人 七百五十回御遠忌法要に向けて

来年2021年に僕は50歳を迎えます。50歳というと子どもの頃ははずいぶんおじさんに思ったものですが、そう思いたくないのは僕だけで僕を見る人は

フツウにおじさんに見えていることでしょう。

さて、そんな僕の生まれた昭和46年に皆満寺では、当時の新門さま（次の御門首になるはずだった方）をお迎えして宗祖親鸞聖人の七百回御遠忌法要が勤められました。令和の時代にそれをそのまま継承するのは難しいと思いますが、何らかの形でお寺としても僕自身としても節目となるので、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要をお勤めしたいと考えています。これから体制を整えていき、皆さまと共に次の時代に皆さまのご先達様が大切に相続してくださった皆満寺という場と親鸞聖人が明らかにして下さったお念仏の教えを手渡していける場を創造したいと思っています。その節にはご理解とご協力の程宜しくお願いいたします。

彼岸会中止のご案内

お彼岸のお中日、3月20日（金）に予定していましたが彼岸会はコロナウィルス感染拡大防止を考慮して中止とさせていただきます。

ご家庭ではお彼岸の入りにお荘厳を整えてお彼岸をお迎えしましょう。

※お彼岸の入りはお中日である春分の日の3日前（17日）です。

てらテラス延期のお知らせ

昨年送らせていただきました、「お寺に集まろうプロジェクト（通称 寺プロ）」リーフレットで4月26日の夕方に当寺と蓮花院様を会場に開催の予告をしていた「てらテラス」ですが、コロナウ

イルス感染拡大を考慮して延期することになりました。仕切り直して現在夏以降の開催を目指しています。また再案内させていただきたいと思います。

永代経日程変更

諸事情により永代経の日程を下記のように変更させていただきます。

永代経

6月20日（土）→6月13日（土）

対象のご門徒には改めてご連絡申し上げます。

第二組の催しのご案内

第50回 親鸞聖人御誕生会

**5月30日（土）
午後1時～
東海市芸術劇場
入場料1000円**

釈徹宗×笑い飯 哲夫

**みんな忙しすぎませんか？
「しんどい時は仏教で考える」**

NHK「100分de名著」でおなじみの釈先生と人気お笑い芸人笑い飯てつお氏によるスペシャル対談。コロナウィルスで開催が危ぶまれますが開催予定です。お楽しみに！！

チケットはお寺で扱っています

お内仏のお荘厳(お彼岸)編

□チェックシート的に使ってください

□①三具足 (燭台、香炉、花瓶)

□②お仏供

□③お華瓶 (檜) ※あれば

※ここまでは平生も整えます

□④打敷

□⑤朱蠟

□⑥香

□⑦お華束

※打敷は平生には用いません。

諸案内

～さんかの会～

讃歌と仏語を楽しむ会

毎月第2, 第4金曜日

～皆画の会～

絵と仏語、折り紙の会

毎月第1金曜日(第3又は第5に変更の場合有り)

どちらも午後1時半から4時頃まで

会費：1回100円(おかし代)

どなた様もお気軽にご参加下さい

満たんヨガ

毎月最終月曜日午後7時半～8時半

呼吸を整えからだをほぐしませんか

講師 新美成果さん

参加費1,000円(高校生以上)

※中学生以下のお子さま一人は無料

二人以上1,000円(何人でも)

但し保護者同伴のこと

※全て4月まで中止とさせていただきます

【後書き】▽「不安に立つ」この言葉は宗派がかつて掲げた名古屋教区のテーマである。最近のコロナ関連のニュースを目にする度に不安を覚えない人はまずいないでしょう。備えあれば憂い無しとはいうものの、マスクがない、トイレットペーパーまで無くなるという状況は、不安に駆られて冷静さを失う私たちの姿が本当に良く映し出されているように思う。この不安はどう収束していくのであろうか。「不安は場を奪う」ある先輩の言葉である。この状況下でアジア人とりわけ中国人や町中で咳をする人に向けられる人に向けられる視線はあまりに厳しい。そして学校という子どもの居場所も失われた。場をひらくことは容易ではないがこんな時にこそ求められる場があるし、ひらかれる場がある。そんな場所って凄いなと思う。僕らは何処まで行っても自分の力で「不安に立つ」ことは出来ない。しかし、求められ、ひらかれた場で僕らは手を取り合いながら自分の足で立ち上がっていく。不安から立ち上がっていくには場がなければ立つことすら出来ない。不用意には開けないけど、場をひらくことを見失わないようにしたいと思った。

「皆満寺通信」第29号

2020年3月16日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町下門137

真宗大谷派 皆満寺

住職 永尾圭吾

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail jinguzan-137@kaimanji.or.jp